

京都薬科大学新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル

2020年5月28日

学校法人京都薬科大学危機管理対策本部

「（新型コロナウイルス感染症対策）2020年6月以降の授業・研究活動・課外活動等」については、既にお知らせしているが、このたび、京都府が策定した「大学等の再開に向けた感染症拡大予防のためのガイドライン」の趣旨を踏まえ、授業や課外活動等、大学の再開に向け、学生及び職員が取り組むべき事柄等について「新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル」として取りまとめた。

したがって、現在、施設利用を禁止している図書館、運動場及び体育館等の利用、及び活動を禁止しているクラブ・サークル活動については、今後、本マニュアルに基づき、再開に向けて検討することとし、状況の変化等に伴い見直すことがある。

1. 学生生活の再開について

大学の再開に当たっては、京都府周辺に在住している学生に加え、全国各地に帰省している学生が京都での生活を再開した上で大学に通学することになることから、

- ・学生に対して、別紙「新しい生活様式（実践例）」を積極的に学生生活に取り入れて実践するよう、事前に周知し、感染の拡大予防につなげる。
- ・本学としては、学生が使用する「施設・設備の消毒の徹底」や「3密の徹底的回避」等、感染拡大予防のための環境を整備する。

①学生生活について

上述のとおり、別紙「新しい生活様式（実践例）」を積極的に学生生活に取り入れて実践するよう、学生に対し再三にわたり周知する。

（学生が実践すべき事柄）

- ・体調の変化に気をつけ、発熱等がある場合は、外出をしない。
- ・多くの学生が京都に戻ってきても、いきなり大勢で集まることはしない。
- ・クラスターが発生しているような施設（接待を行う飲食店、カラオケ、ライブハウス、スポーツジム等）や「三つの密」のある場所への外出はしない。
- ・アルバイトを行う場合は、勤務先の感染拡大予防ガイドラインに従って行動する。
- ・コミュニケーションは、SNSやオンラインを活用する。

②学生の移動について

全国各地に帰省している学生が、一斉に京都に移動することがないように、大学の再開に当たっては、学事スケジュールを早い時期に周知し、学生移動に余裕のあるスケジュールを確保する。

2. 大学施設の利用について

①講義室等の利用について

消毒の徹底や3密を徹底的に回避する等、感染拡大予防のための取組を最大限講じた上で対面授業を再開する。

（取り組みとして実践する事柄）

- ・入室前の流水・石鹸手洗い又は手指消毒を義務付ける。
- ・講義室での着席は、文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に定める教室の座席配置の基準を参考に、可能な限り距離を確保し、対面としないようにする。
- ・小講義室を使用していた授業は中講義室、中講義室を使用していた授業は大講義室を

用いる等、これまでより広い講義室を使用する。

- ・講義・実習の際は、必要に応じて複数のグループに分けた上で講義室を使用する。
- ・対面授業を実施する場合は、複数グループに分けたり、学年別に行う等、できるだけ多くの学生が同時に学内に集まることのないよう、工夫する。
- ・機械換気により、終日換気を行うとともに、適宜、施設・設備の消毒を行う。
- ・学生同士が大声で会話しないよう、注意喚起する。
- ・聴覚障害の学生等、教員の口の動きを見る必要がある場合には、教員にフェイスシールドを着用させる等、可能な限り配慮する。
- ・持病がある等、感染した場合に重症化するリスクの高い学生に対しても、可能な限り配慮する。

②図書館の利用について

オンラインサービスの充実を図りつつ、入館時の手の消毒、マット利用等による靴底の衛生の徹底や3密を根本的に回避する等、感染拡大予防のための取組を最大限講じた上で段階的に利用再開を進める。

(取り組みとして実践する事柄)

- ・閉館解除直後は、閲覧席の利用を禁止する。
- ・同じくその時期は、館内での滞在時間を原則として30分以内とする。
- ・館内滞在者数を一定数（例えば50名程度）に保てるよう、館内のシステムを用いた予約制度の利用等の工夫に努める。
- ・図書資料の郵送による返却を受け付ける。
- ・閲覧席は十分な座席の間隔を確保する。
- ・視聴覚資料利用時のヘッドフォンの貸出を停止する。
- ・学外者（一般利用者）の利用は謝絶する。
- ・利用者と対面で貸出手続き等の作業を行う場合、透明板等により、来館者との間を遮断する。
- ・機械換気により、終日換気を行うとともに、適宜、施設・設備の消毒を行う。
- ・館内での会話を禁止する。
- ・その他、「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他大学、他の図書館の最新の動きに学び、良い例を本館にも生かす取組を行う。

③運動場、体育館等の利用について

運動・スポーツにより呼気が激しくなることを踏まえ、消毒の徹底や3密を徹底的に回避する等、感染拡大予防のための取組を最大限講じた上で利用を再開する。

(取り組みとして実践する事柄)

- ・運動・スポーツの種類に関わらず、運動・スポーツをしていない間も含め、周囲の人と距離を空けるよう、指導する。
- ・強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空けるよう、指導する。
- ・歩く・走る場合は、前の人の呼気の影響を避けるため、前後一直線に並ぶのではなく、並走あるいは斜め後方に位置取るよう、指示する。
- ・更衣室・休憩スペースでは、一度に入室する利用者の数を制限する。
- ・体育館においては、機械換気により、終日換気を行うとともに、定期的に窓を開け、外気を取り入れる等、十分な換気を行う。
- ・使用した運動器具や体育館の床は、こまめに清掃する。
- ・観客を入場させる場合には、観客同士が密な状態とならないよう、人と人との十分な間隔を確保するよう、指導する。また、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合のマスクの着用等を周知徹底する。
- ・各種の競技を行う場合は、中央競技団体が定めるガイドラインを参考にして必要な取

組を行う。

- ・その他、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」、「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を参考に必要な取組を行う。

④食堂、購買等の利用について

利用者間の密度が高く、対話が発生しやすい特性を踏まえ、消毒の徹底や3密を徹底的に回避する等、感染拡大予防のための取組を最大限講じた上で利用を再開する。

(取組みとして実践する事柄)

- ・入室前の流水・石鹸手洗い又は手指消毒を義務付ける。
- ・混雑時は入場制限を実施する。
- ・多人数での使用は控えるよう、周知する。
- ・入退出時(入退出時の行列含む)においては、人と人との十分な間隔を確保する。
- ・食堂では、片側座席のみの使用を励行し、座席の間隔を十分に空けるようにする。
- ・食堂では、大皿での取り分けによる食品提供を行わないようにする。
- ・従業員と利用者の間は、透明板等を設けて遮蔽する。
- ・レジ等に並ぶ場合は床に印をつける等、十分な間隔を空けるようにする。
- ・機械換気により、終日換気を行うとともに、適宜、施設・設備の消毒を行う。
- ・利用者には大声での会話を行わないよう、注意喚起する。
- ・従業員や出入り業者においても発熱や感冒症状がないことを確認する等、衛生面や健康面の管理を徹底する。
- ・授業時間をずらす等、休憩時間や昼休み時間が重ならないよう、工夫する。
- ・その他、「飲食料品供給」、「食堂、レストラン、喫茶店等」、「生活必需物資供給」の業種別ガイドラインを参考に必要な取組を行う。

3. 大学における活動について

①イベントの開催について

大学においてイベント等を開催する場合については、消毒の徹底や3密を徹底的に回避する等、感染拡大予防のための取組を最大限講じた上で開催する。

(取組みとして実践する事柄)

- ・屋内であれば、100人以下、かつ収容定員の半分程度以内の参加人数、屋外であれば、200人以下、かつ人と人との距離を十分確保（できるだけ2m）を目安として開催する。
- ・入退場時の制限や誘導、待合場所等における密集の回避、流水・石鹸手洗い又は手指消毒、マスクの着用、室内の換気、声援に係る感染防止策等を行う。

②クラブ・サークル活動について

クラブ・サークル活動等については、学生が、消毒の徹底や3密を徹底的に回避する等、感染拡大予防のための取組を最大限講じた上で再開する。

(取組みとして実践する事柄)

- ・クラブ・サークルごとに、文化系、体育系それぞれの特性を踏まえた感染拡大予防策を、活動の類似する業種別ガイドラインや中央協議団体が定めるガイドラインを参考に作成させる。
- ・活動に当たっては、当日の参加者を確認させる。
- ・クラブ・サークル活動のための部室、クラブボックス等は、3密の原因となるリスクが高いことから、短時間利用、少人数利用、適切な換気を徹底させる。
- ・文化コンクール、スポーツ公式戦等への出場に当たっては、主催団体の定める感染拡大予防マニュアル等に従って行動させる。

4. その他、各施設等における感染拡大予防対策の共通事項について

(1) 人と人との距離等：3 密（密閉、密集、密接）を回避する。

- ①人と人との接触を避け、対人距離（できるだけ2mを目安に（最小1m））を確保する。
- ②フロアマーカを設置する等、間隔を空けて整列するよう促す。
- ③構内でのマスクの着用（職員、学生及び来校者）を義務付ける。
- ④機械換気による施設内の換気を徹底する。

(2) 入構の規制

- ①発熱している者及び体調不良者は、原則、入構を禁止する。
- ②万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、接触の程度にあわせ、外部からの入構者等の名簿を適正に管理する。

(3) 消毒等

- ①入口及び各施設内の手指の消毒設備（流水・石鹸による手洗い、手指消毒用アルコール等）を設置する。
- ②ドアノブ等、複数の人の手が触れる場所を適宜消毒する。
- ③手や口が触れるようなもの（コップ、箸など）は、適切に洗浄消毒する等特段の対応を図る。
- ④人と人が対面する場所は、透明ビニールカーテン等での遮蔽に努める。
- ⑤他人と共用する物品や手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にする。

(4) エレベーター

- ①乗員の立ち位置・向きを表示する等、乗員の人数制限を行う。
- ②箱内で会話をしないよう、注意喚起する。
- ③不要・不急の使用を自粛するよう周知する。（階段利用を励行する。）

(5) トイレ

- ①便器内は通常の清掃とする。
- ②不特定多数が接触する場所（ドアノブ、トイレの便座、便座のふた、トイレットペーパーのふたや水洗レバー等）は、定期的に清拭消毒を行う。
- ③トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- ④エアタオルの使用を停止する。

(6) 休憩スペース

- ①一度に休憩する人数を減らし、対面で食事や会話をしないよう、注意喚起する。
- ②休憩スペースは、常時換気するよう努める。
- ③共有する物品（テーブル、いす等）は、定期的に消毒する。
- ④職員及び学生が使用する際は、入退室の前後に手洗いをするよう、周知する。

(7) ごみの廃棄

- ①鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛るよう周知する。
- ②ごみを回収する人は、マスクや手袋を着用するよう、周知する。
- ③マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗うよう、周知する。

(8) 清掃・消毒

- ①市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃する。
- ②通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を始業前、始業後に清拭消毒する。
- ③手が触れることがない床や壁は、通常の清掃とする。

(9) その他

- ①高齢者、持病のある方や妊婦については、感染した場合の重症化リスクが高いことから、個別により慎重で徹底した対応を検討する。

以上

「新しい生活様式」の実践例

（１）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m） 空ける。
- ☐ 遊びにいくなら屋内より屋外を選ぶ。
- ☐ 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- ☐ 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
- ☐ 家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- ☐ 地域の感染状況に注意する。

（２）日常生活を営む上での基本的生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒
- ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気
- ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ☐ 毎朝で体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



（３）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- ☐ 通販も利用
- ☐ 1人または少人数ですいた時間に
- ☐ 電子決済の利用
- ☐ 計画をたてて素早く済ます
- ☐ サンプルなど展示品への接触は控えめに
- ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- ☐ 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- ☐ 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ☐ ジョギングは少人数で
- ☐ すれ違うときは距離をとるマナー
- ☐ 予約制を利用してゆったりと
- ☐ 狭い部屋での長居は無用
- ☐ 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- ☐ 会話は控えめに
- ☐ 混んでいる時間帯は避けて
- ☐ 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- ☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも
- ☐ 屋外空間で気持ちよく
- ☐ 大皿は避けて、料理は個々に
- ☐ 対面ではなく横並びで座ろう
- ☐ 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- ☐ 多人数での会食は避けて
- ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

（４）働き方の新しいスタイル

- ☐ テレワークやローテーション勤務
- ☐ 時差通勤でゆったりと
- ☐ オフィスはひろびろと
- ☐ 会議はオンライン
- ☐ 名刺交換はオンライン
- ☐ 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

3つの密を避けるための手引き!

- 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、咳エチケット、手指衛生等に加え、**「3つの密(密閉・密集・密接)」**を避けてください。
- 3つの密が重ならない場合でも、リスクを低減するため、できる限り**「ゼロ密」**を目指しましょう。
- 屋外でも、密集・密接には、要注意。人混みに近づいたり、大きな声で話しかけることなどは避けましょう。



①「密閉」空間にしないよう、こまめな換気を!

「部屋が広ければ大丈夫」、「狭い部屋は危険」というものではありません。力半は「換気の程度」です。WHOも、空気感染を起こす「結核・はしかの拡散」と「換気回数の少なさ」の関連を認めています。

窓がある場合

- ・風の流れることができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間程度、全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。
- ・窓が1つしかない場合でも、入口のドアを開ければ、窓とドアの間に空気が流れます。扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば、換気の効果はさらに上がります。



機械換気がある場合

- ・窓がない施設でも、建物の施設管理者は、法令により感染症を防止するために合理的な換気量を保つような維持管理に努めるよう定められています。
注)ビル管理法により、不特定多数の方が利用する施設では、空気環境の調整により、一人当たり換気量(毎時約30m)を確保するよう努めなければなりません。
- ・したがって、地下や窓のない高所の施設であっても、換気設備(業務用エアコン等)によって換気されていることが通常のため、過剰に心配することはありません。
- ・しかし油断は禁物です。換気量をさらに増やすことは予防に有効です。冷暖房効率は悪くなりますが、窓やドアを開けたり、換気設備の外気取入れ量を増やしましょう。また、一部屋当たりの人数を減らしましょう。
- ・通常の家計用エアコンは、空気を循環させるだけで、換気を行っていません。別途、換気を確認してください。また、一般的な空気清浄機は、通過する空気量が換気量に比べて少ないことから、新型コロナウイルス対策への効果は不明です。

乗り物の場合

- ・乗用車やトラックなどのエアコンでは、「内気循環モード」ではなく**「外気モード」**にしましょう。
- ・電車やバス等の公共交通機関でも、**窓開け**に協力しましょう。



②「密集」しないよう、人と人の距離を取りましょう!

- ・他の人とは互いに手を伸ばして届かない十分な距離(**2メートル以上**)を取りましょう。



- ・スーパーのレジなどで列に並んでいるとき、前の人に近づきすぎないように注意しましょう。

- ・飲食店の座席では、**隣の人と一つ飛ばしに座る**と、距離を確保しやすいです。

また、真向かいに座らず、**互い違いに座る**のも有効です。

店舗の責任者は、椅子の数や配置を工夫して、十分な距離を保ちましょう。



- ・エレベーターでは、多くの人が密集しがちです。混みあっているときは、一本遅らせましょう。また、健康のためにも、階の上下には階段の利用に努めましょう。



- ・職場は、工夫してテレワークへ転換しましょう。導入に向けた支援策もあります。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html#hatarakukata



③「密接」した会話や発声は、避けましょう!

- ・密接した会話や発声は、ウイルスを含んだ飛沫を飛び散らせがちです。WHOは「5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛まつ(約3,000個)が飛ぶ」と報告しています。



- ・対面での会議や面談が避けられない場合には、**十分な距離を保ち**、マスクを着用しましょう。



- ・エレベーターや電車の中などでは、距離が近づかざるを得ない場合があります。**会話や、携帯電話による通話を慎みましょう。**

- ・飲食店では、マスクを外す時間が長くなりがちです。外している間に飛沫が飛ぶことを抑えるには、例えば多人数での会食のように、大声にならざるを得ない催しは慎みましょう。家族以外の多人数での会食などは避けましょう。



- ・スポーツジムなど、多人数かつ室内で呼吸が激しくなるような運動を行うことは避けましょう。



- ・喫煙も、近くにいる人との「密」に、ことのほか注意して下さい。

